

# 2010年度 事業報告

## I 法人の概要

### 【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ  
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

### 【2】 学校法人の沿革

1915年（大正4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設（のちに附属音楽学園に改組）
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属図書館開設
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く

### 【3】 役員・教職員の概要

#### 理 事

---

理事定数 10～15 名

理事長	中村 孝義	理事	日下部吉彦 (2010年6月29日付退任)
常任理事	中上 善生	理事	十川 輝明 (2010年4月1日付就任)
常任理事	本田 耕一	理事	永井 譲
常任理事	水漉征矢雄	理事	中野 寛成 (2010年6月30日付就任 2011年1月14日付退任)
常任理事	武藤 好男	理事	古林 清造
理事	大川真一郎	理事	安則 雄馬 (2010年6月29日付退任)
理事	北野 徹 (2010年6月30日付就任)		

#### 監 事

---

監事定数 2 名

永井 俊一  
山下 欣男

#### 評議員

---

評議員定数 21～31 名

#### 大学長及び幼稚園長

---

大阪音楽大学学長	中村 孝義
大阪音楽大学短期大学部学長	中村 孝義
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2010年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科 ・ 専 攻		入学定員	3年次編 入学定員	収容定員	在籍数
作曲学科	作曲専攻 音楽学専攻	10名	2名	44名	31名
声乐学科		60名	8名	256名	174名
器楽学科	ピアノ専攻 ピアノ演奏家特別コース ピアノ・コース オルガン専攻 管楽器専攻 弦楽器専攻 打楽器専攻 邦楽専攻	140名	20名	600名	711名
計		210名	30名	900名	916名

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	2名	0名
声乐専攻	6名	13名
器楽専攻	12名	22名
計	20名	35名

●大阪音楽大学 大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	在籍数
音楽研究科	作曲専攻	2名	4名	6名
	声乐専攻	3名	6名	9名
	器楽専攻	5名	10名	12名
計		10名	20名	27名

●大阪音楽大学 短期大学部

学 科	コース	入学定員	収容定員	在籍数
音 楽 科	作曲コース 声楽コース ピアノコース 管楽器コース 弦楽器コース 打楽器コース 邦楽コース ジャズ・コース ポピュラー・コース ミュージカル・コース 電子オルガン・コース	270 名	540 名	365 名
計		270 名	540 名	365 名

●大阪音楽大学 短期大学部 専攻科

専 攻	入学定員	在籍数
作曲専攻	2 名	0 名
声楽専攻	5 名	9 名
器楽専攻	8 名	16 名
計	15 名	25 名

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学 年	定 員	在園児数
3 歳児 3 学級	105 名	99 名
4 歳児 3 学級	105 名	98 名
5 歳児 3 学級	105 名	81 名
計	315 名	278 名

## II 事業の概要

2012年度より大阪音楽大学音楽学部を現在の3学科から1学科に改組し、クラシックギター、ジャズ、電子オルガンの新たな専攻を加えることが学内で正式に審議・承認され、文部科学省への届出及び教職課程の認定申請の準備に着手することとなった。

大学院の収容定員を20名から26名に増員することが学内で正式に審議・承認され、大学院規則の変更を文部科学省に届け出ることとなった。近年の志願者数の増加を反映した結果である。

2011年度における大阪音楽大学短期大学部専攻科の3専攻（作曲、声楽、器楽）から1専攻（音楽）への組織変更にもない、独立行政法人大学評価・学位授与機構に専攻科認定の申出を行い、機構が定める要件を満たす専攻科としての認定を得た。

2010年10月～12月の期間中、提携校である王立ウェールズ音楽演劇大学（英国）からの交換留学生を受け入れた。当該留学生は学生寮を生活の拠点とし、本学学生との交流を深めた。2011年度は本学在学学生を英国に送り出すことがすでに決定している。

文部科学省「大学改革推進等補助金」（大学生の就業力育成支援事業）に、本学の「事実にもとづく日本語ライティング能力」が採択され、2010年度より5年間にわたる助成を受けて日本語の運用能力に関する教育体制や教育方法の改善、その展開に取り組むこととなった。

2009年度に採択された文部科学省「大学教育・学生支援事業」学生支援プログラムである「音楽の仕事情報館構築による学生の音楽仕事力育成と就職支援」が2年目を迎え、地域社会や他大学との連携事業を活発に展開した。

学生に対するキャリア指導をより充実させる目的から、エクステンション事務部門の事務室を改修し、4月1日より「キャリア相談室」を開設した。

6月1日に事務局組織を改め、政策企画本部を各事務部門・事務室の上位に置いた。このことにより同本部が学校法人の管理運営を担う理事会に近いポジションから「法人業務」「広報」「自己点検・評価」「国際交流」を担当することとなった。またエクステンション事務部門のコンサートセンターが演奏事務部門として独立した。

大阪夕陽丘学園高等学校と指定校に関する協定書を締結し、2011年4月より音楽コース以外の志願者についても、条件を満たしている場合は入学試験において高等学校特別推薦制度を適用することとした。また前年度に締結した帝塚山学院高等学校との教育交流に関する協定に基づき、本学への学生の受け入れ、高等学校への教員の派遣、教育についての情報交換等を行った。

教授会開催時に定例的にFDフォーラムを開催しており、7月、10月に模擬授業を実施した。

SD検討チームが事務局会議からの諮問事項に対する報告書をまとめると同時に報告会を開催した。同チームは解

散となり、新たに事務局会議 SD 分科会がその役割を引き継いだ。この分科会により学内広報誌の発行や SD 講座の開講、資格取得の奨励等を継続している。

大学・短大教授会の承認により白井光子、日下部吉彦、福田進一の各氏が客員教授に就任した。

以下  内は事業名を示す。

## A 教育・研究事業

### 【1】大学院

作曲研究室5名、音楽学研究室1名、オペラ研究室5名、歌曲研究室4名、ピアノ研究室8名、管弦打研究室4名 (Vn2 Sx1 Eu1) 計27名が在籍。各研究室による修士演奏会、修士研究発表会を経て、作曲2名、オペラ1名、歌曲2名、ピアノ4名、管弦打3名 (Vn2 Sx1) の計12名が修了した。

2011年度入試は、前期日程28名の志願者で、音楽学1名、歌曲2名、ピアノ3名、管弦打2名の計8名、後期日程14名の志願者で、作曲1名、音楽学1名、オペラ3名、ピアノ1名の計6名、前後期合わせて、14名が合格。

2010年度マスターズコンサートは、7月8日にザ・カレッジ・オペラハウス で開催され、オペラ研究室1名、ピアノ研究室1名 管弦打研究室1名 (Sx) の計3名が、小田野宏之特任教授指揮のザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団と共演した。その他、各研究室での研究発表会を行った。

なお、過年度より行っていた大学院演奏会は、本年度よりマスターズコンサートと統合され、2011年度からは内容を一新し、『大学院定期演奏会』として開催することになった。

#### < 修士演奏会 >

修士課程 1年目の成果発表の場として、2011年度よりカリキュラムとして『修士演奏会』を導入するが、その試行として、2011年2月22日、28日、3月1日、4日、8日にミレニアムホールにおいて『修士演奏会』を実施した。意義深い催しで、社会において即戦力となる音楽家の育成を目指す大学院の教育理念に即したプログラム構成により、大学院の教育水準の高さを広く社会に明示する事ができた。

### 【2】大学・大学専攻科

916名が在籍、245名が卒業した。卒業生の中から、最優秀賞4名、優秀賞10名、音楽社会活動賞1名を表彰した。音楽専攻科は35名が在籍、全員が修了した。

2011年度から実施するセメスター制への移行に伴うカリキュラムを確定した。さらに2012年度から現行の作曲・声楽・器楽の3学科から音楽学科1学科への改組を決定し、2011年4月の文部科学省への届出に向けて、2012年度の学則及びカリキュラムの改訂作業を実施した。2012年度より音楽学科のもとに、現在の9専攻にクラシックギター、ジャズ、電子オルガンの3専攻を加え、1学科12専攻の体制となる。なお、電子オルガン専攻設置に伴い、オルガン専攻をパイプオルガン専攻に名称変更する。

過年度から実施しているオープンレッスン制度に加え、後期から担当教員以外のレッスンを受講できるプラスレッスン制度を作曲・声楽・ピアノ・邦楽専攻生を対象に実施した。

GPAを導入し、CAP制と連動させることにより、学生から要望が強かった履修単位数の上限を習熟度により緩和した。

初年次導入教育の一環として、「教養基礎セミナー」を新入生必修の半期科目として設定した。なお、2011年

度は更なる充実を図り、前・後期の1年間開講する。

大阪夕陽丘学園高校の音楽コース以外の生徒を受け入れる、本学としては初めての指定校協定を締結した。

音楽専攻科は音楽実践演習として、2回のオータムコンサートを「LIC はびきの」と洲本市文化体育館で実施した。

#### 大学・セメスター制の導入

##### ●要旨

学生のより効果的な履修を実現し、海外提携校への留学を制度的に確立することを目的に、2011年度に向けて大学セメスター制導入を準備する。

##### ●成果及び達成度

授業科目の見直し・整理、新規開講を含めて、セメスター制に適合したカリキュラムの改定作業を完了し、2011年度1年次入学生より適用する。合わせて在学留学を可能とする履修プログラムの整備も行った。

##### ●今後の展望

2011年度に向けてのセメスター制への準備は整ったが、2012年度に向けて大学の作曲・声楽・器楽の3学科から音楽学科1学科への改組の作業も並行して行い、文部科学省への届出準備作業の一環として、2012年度のカリキュラム整備も2010年度中に実施した。今後もセメスター制のメリットを活かした、より学生が履修しやすいカリキュラムと時間割編成についての検討作業を継続する。

#### 【3】短期大学部・短期大学部専攻科

365名が在籍、163名が卒業した。卒業生の中から優秀賞9名、音楽社会活動賞2名を表彰した。専攻科25名が在籍、23名が修了した。

大学と連動して、GPAと連動したCAP制の運用を開始した。

志願者獲得の活動として、ポピュラーコースにおいて帝塚山学院中学校、高等学校との講師派遣や特別聴講生としての受け入れなどの連携事業が開始された。ミュージカルコースは、専任教員を配置して2011年度より体制を刷新して内容の充実を図る。2012年度より大学が1学科に改組されることに連動して、従来弦楽器コースに置かれていたギターがクラシックギター・コースとして独立すること、ダンスパフォーマンス・コースを新設することが決定した。

短大専攻科は短大本体の改組に連動して、音楽専攻のもとに11コースを置く改組を文部科学省に届け出た。併せて大学評価・学位授与機構の認定を得た。

コンサートプロデュース論授業の成果発表としての演奏会が本学ミレニアムホールで実施された。

#### 大阪音楽大学短期大学部専攻科の充実

##### ●要旨

過年度の作曲、声楽、器楽専攻を音楽専攻11コースとする改組、並びに定員の見直しを通じて、新コースにおけるカリキュラムを深化・発展させ、大阪音楽大学短期大学部専攻科全体としての教授内容を充実する。

##### ●成果及び達成度

今年度より音楽専攻のもとに11コースを設置する改組が届出によって実現した。これによって短期大学部と連動したコースの独自性を生かすカリキュラムが立案され、短大本体と専攻科の教育の連続性が図られることとなった。定員(15名)の見直しについては過年度の志願状況を考慮して変更しないこととした。また大学評価・学位授与機構による認定を取得し、専攻科修了後の学位取得への道筋が確保された。

#### 【4】国際交流

これまで提携が完了した海外の大学との実質的な交流が行われた。具体的には2010年4月にブローニュ=ビヤンクール地方音楽院（フランス）での催しに本学の教員を1名派遣し、王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）との間で9月にウェールズから学生を1名受け入れ、本学からは2011年度4月に学生を送り出す交換留学が成立した。当該学生はすでに3月中に渡英している。さらに、アメリカ・ミシガン州立大学との提携の可能性を探った。2011年5月末にフォルクバング芸術大学から教員が来校し、本学教員と演奏会で共演し、マスタークラスのレッスンをを行うことが予定されており、それに向けての交渉・調整を行っている。

10月にドイツ連邦共和国総領事館とドイツ文化センター主催で行われた「日独交流150周年記念オープニングイベント」に、本学は会場（ザ・カレッジ・オペラハウス）提供と演奏で協力をし、好評を得た。

#### 海外教育機関との連携及び交流推進（国際交流推進事業）

##### ●要旨

1. 王立ウェールズ音楽演劇大学との交換留学の実現
2. ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院（フランス）への教員派遣
3. 海外交換留学を実現するための基盤づくり
4. 海外からの提携打診、訪問などへの対応

海外からのおもな来校者

シンガポール・Dunman High School の生徒 25名

シンガポール・Crescent Girls' School の生徒 50名

5. フォルクバング芸術大学からの教員の来校（演奏会、マスタークラスレッスン）受け入れ準備

##### ●成果及び達成度

1. 提携校であるブローニュ=ビヤンクール地方音楽院で行われた企画「日本週間」に本学教員を1名派遣した。
2. 提携校である王立ウェールズ音楽演劇大学から1名、本校から1名の交換留学が実現した。（本学学生の現地受け入れは2011年度）
3. 在学留学制度による交換留学を実現できた。
4. 現在、新たに提携の可能性のあるのはミシガン州立大学(アメリカ)である。
5. 国際交流委員会の開催を原則として月1回開催した。

##### ●今後の展望

1. 本学ホームページの国際交流のページにより、海外との連携を学内外にアピールする（留学・提携校情報・交流演奏会等）。
2. 海外からの留学生の受け入れ態勢を整備することにより、アジアのみならず欧米からも留学生を集める国際的評価の高い大学という実績を創る。
3. 在学留学制度による留学をより充実させ、積極的に留学できる機会を学生に提供する。

#### 【5】学生生活支援・福利厚生

学生の自主企画演奏会のうち25件（前年度27件）に対して本学音楽文化振興財団が経済的支援を行った。また、本学奨学事業財団の奨励金給付対象となった学生の自主活動は19件（前年度26件）であった。

日本学生支援機構奨学金貸与者は568名（前年度616名）、本学奨学事業財団奨学金貸与者は103名（前年度107名）であった。

2008年度から導入した報奨的奨学制度は、「給付奨学金」として、大学25名（申請者125名）、短大11名（申請者51名）、大学音楽専攻科2名（申請者9名）、短大専攻科1名（申請者5名）を選出し、所定の奨学金を給付した。また、「海外提携校留学助成金」の申請者はなく、「国内音楽講座受講助成金」の申請者は3名で、うち2名を適用者として選出した。また、この制度を活用して大学院生を対象に「京都フランス音楽アカデミー」の受講希望者を募集し、2名を選考したが、2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響により開催が中止となったため、助成を取り止めた。

保健室の利用は月平均126件（前年度111件）、健康診断の受診率は92.1%（前年度90.4%）。保健室の看護師資格を持つ職員による心の問題に関する相談は302件（前年度44件）。契約カウンセラーによる「心の相談室」の活用は83件（前年度33件）であった。

学生寮入寮者は100名（うち新入寮者34名）。4月に新入寮生を含む新入生を対象とした「フレッシュマン・キャンプ」を実施し、学生間の交流を図った。

寮生が相互に交流し、また寮職員・舎監、学生生活担当教員・職員との親睦を深めるため、7月に「スイカのタベ」、12月に「クリスマス・パーティー」を開催した。いずれも約50名の寮生が参加し、イベント内容も工夫され、寮生間の親睦、寮職員・舎監との交流を深めることにつながった。また、新入生の大学生活へのスムーズな順応を目的に、新入生オリエンテーションを実施した。

#### 「音楽の仕事情報館」構築による学生の音楽仕事力育成と就職支援（GP採択プログラム）

##### ●要旨

SNS「OMSBI」の本格稼働と同時に、恒常的に実施するイベントとして「OMⅢ」と「ミント神戸ストリートライブ」の実施を開始した。また、不定期ではあるが本学録音室を使用した「録音室体験」を4回、「葉山珈琲カフェコンサート」を3回実施したほか、2009年度から継続実施している「手塚ワールドで音楽三昧♪」をはじめ単発のイベントを数多く実施するなど、非常に活動的な一年となった。8月30日から9月12日にかけては有馬温泉観光協会と関西4大学による産学・大学間連携事業「有馬温泉ゆけむり大学」を実施、成功させたほか、12月1日から12月13日にかけては、神戸ルミナリエ2010において本学をはじめ、神戸芸術工科大学、神戸海星女子学院大学、神戸市看護大学、そして非営利活動法人「阪神淡路大震災1.17希望の灯り」が連携し、震災の記憶をアートの方で語り継ぐことを目指す、「ヒトキズナ+ぷろじえくと」を実施、成功させた。

また、2010年9月15日付けで文部科学省より対応要請があった、『政府の「経済対策」への対応について』に対して予算変更交付申請書を提出し、予算の追加配分を受けた。この追加配分された予算によって本学出身の音楽キャリアカウンセラーを雇用し、個別の音楽関連業界就職相談窓口を設置し、電話での就職相談、進路相談を行った。

さらに、2011年3月には、音楽キャリアカウンセラーの補助として、新たに2名の音楽キャリアカウンセラーを雇用し、上記の作業に加え、本学卒業後3年以内の卒業生の就職状況を電話等でヒアリング調査を実施して、音楽関連業界に就職している卒業生と音楽関連業界志望の卒業生の情報を収集し、次年度へ向けて音楽関連業界へのキャリア支援の早期対策、在学生への業界情報提供と就業力支援対策のための基礎データの構築を図った。

##### ●成果及び達成度

積極的な活動が実践できたことや、アイ・キャッチとしてイメージキャラクター「おむすびまる」を設定したこと、活動のキー・ワードとして「OMSBI」を継続的に提唱したことにより、学内外に対し「音楽の仕事情報館」の活動を広く周知させることができた。活動の様子はマスメディアにも度々取り上げられ、社会的な注目を広く集めることにも成功している。就業力育成支援事業としての成果としては、活動を通じて学生個々の資質を把握し、それぞれの適正に応じた進路選択や音楽活動に対するアドバイスを提供することができた。

さらに、『政府の「経済対策」への対応について』に対して変更交付申請を行い、年度内に追加配分された予算によって雇用した音楽キャリアカウンセラーによる個別相談では、より自分にあった職種への就職希望へと向かうサポートができた。電話でのヒアリング調査による情報収集からは、これからの大学としてのキャリア支援が在 studentにとどまらず、卒業生への支援、特に情報提供と精神的なものを含めたサポートが必要とされている現実を認識することができた。

#### ●助成

この事業に関して、大学改革推進等補助金を得ているが、年度の途中において、「経済対策」に関する変更交付申請が認められ、追加補助金を得ることができた。

#### ●今後の展望

上記のイベントを更に発展させ実施していくほか、その実績を活かして音楽の現場体験から得た経験知を集約し、「音楽の仕事」に関する情報の収集と学内外への発信を目指す。また、担当スタッフをはじめ、イベントに参加・協力した在 student・卒業生の中から「音楽仕事コーディネーター」となりうる人材を育成するために、知識・スキルの習得支援を推進する。

### ばうぜ2階の演奏環境整備

#### ●要旨

学生サロンばうぜ2階のパソコンを移設し、学生がミニコンサートなどの活動が行いやすいスペースを既に確保しているが、今後は使用されることが少ないカウンター奥のスペースの一部を機材置き場とし、学生が使える簡素なPA機器（ミキサー、PAスピーカー）、小型ドラムセット、マイク、マイクスタンド等を設置する。

#### ●成果及び達成度

機材置き場の整備はできたが、PA機器（ミキサー、PAスピーカー）、小型ドラムセット、マイク、マイクスタンド等は設置せず、管理事務部門の支援でその都度対応した。

学生による利用はまだ少ないものの、ミニライブは数件行われた。また、教員免許状更新講習時の懇談会における学生によるミニコンサート等の会場として利用されるなど、手軽な演奏会場として稼働している。

#### ●今後の展望

学生による課外活動・演奏支援の一環として、ばうぜ2階を有効に活用して、演奏技術の向上並びに外部施設等で自主的な演奏活動を行う前に経験を積む場となることを期待している。そのために、ばうぜ2階が演奏会場として利用できることを学生に周知するとともに、演奏会等を企画する学生の育成など、大学からの積極的な働きかけも必要になると思われる。

### 【6】教員の研究活動

研究助成は通常研究が12件、特別研究(学術分野)は継続分が1件、特別研究(芸術分野)は3件であった。「研究紀要第49号」は従来の冊子体での発行は取りやめ、WEB版のみとし、2月28日にWEB上で公開をした。論文6件、研究ノート1件が掲載されている。また、科研費での研究は研究分担を含め2件あった。

研究委員会は10回開催され、研究紀要のWEB版発行の検討や音楽博物館・図書館が抱える問題について活発な議論が行われた。

FD総括委員会は9回開催された。FD活動の一環として、公開授業が1回、授業研究会が2回行われたが、これはFDに関する共通理解を深める点で効果があった。しかしながらFDフォーラムの参集率とFD助成制度について課題が残った。

## FD 推進室活動

### ●要旨

FD 統括主事を中心に各教員の FD に対する意識をさらに深め、大学全体・各専攻別の FD 活動を活性化させる。また、特色ある取り組みの実践、非常勤講師への働きかけ、大学への提言など FD 活動をより具体的なものとする。2010 年度目標は学外へ向けて本学 FD 活動の〈見える化〉を進めることであった。

### ●成果及び達成度

FD 統括主事を新設し、主事のもとに FD 総括委員会を設置したことで、組織的 FD 活動の主導的役割を担う体制を整えた。また、FD 推進室には FD に関する基本的な書籍・文献資料等を収集し閲覧可能にするとともに、日常的にさまざまな質問や意見を受け付ける窓口ともなっている。以下、主要な活動について報告する。

#### ①FD アンケート

4 月に全教員対象の FD アンケートを実施し、各教員が日々の教育活動において感じている疑問や悩みを吸い上げる試みとした。非常勤教員も対象とした初めての試みだったため、自由記述を増やしたアンケートであったが、いわゆる「学生気質の変化」に関する悩みが多く記述されていたことが特徴であり、多くの教員にとって、学生に関連する情報の共有化といった面での全学的支援の必要性が明らかになった。

#### ②FD 研修会～授業研究会の試行

以前より、不定期の「FD 研修会」としてキャンパス・ハラスメントに関する講習や情報機器の活用に関する講習等を行っていたが、平成 2009 年度より公開模擬授業や授業研究会の試行を開始した。2009 年度にはソルフェージュ部会による公開模擬授業、2010 年度にはこれに加えて、教職科目「総合演習」と外国語「イタリア語」の授業紹介を FD フォーラム内で行った。これらは、その内容とともに、事後の討論が活発化し、参加教員に好評であった。

#### ③公開授業

実技系科目に関してはオープンレッスン制度が導入されているが、講義系科目の授業公開については公開に向けてその具体的方法を中心に議論した。2011 年度には試行を開始する予定である。

#### ④各専門分野の FD 活動。

ピアノ部会が定期的に独自の FD シンポジウムを行うなど、先進的な取り組みを行っているが、他の専門分野でもそれぞれの特性に応じた FD 活動を展開している。今後は、それらの活動情報の FD 推進室への集約と学内への周知が課題となる。

#### ⑤他大学との情報交換

12 月に国立音楽大学で開催された「音楽系大学における実技系の FD シンポジウム」に本学の教員をシンポジストとして派遣し、また FD 統括主事と FD 担当職員も参加し、情報発信とともに情報収集を行った。その内容は 2011 年 3 月に国立音楽大学が発行し各方面に配布された報告書『音楽大学における実技科目の FD の推進』に収録された。

#### ⑥FD 助成金制度の創設と運用

FD 活動を活性化させる目的で、FD 助成金制度が 2010 年度に創設されたが、その運用方法をめぐって、さまざまな課題が浮き彫りになったため、より利用しやすい制度への改善に向けて議論を行った。

### ●今後の展望

次年度以降の課題として FD 活動の年間スケジュールの明確化、全体企画と各専門分野における FD 活動の計画策定を行うとともに、それらの活動の大学ホームページを利用した公開等、FD 活動の可視化を図る。また、実技系教員によって蓄積されてきた研究成果を、より目に見える形で社会にアピールすべく、研究紀要への執筆を広く呼びかけるとともに、執筆支援のための体制作りにも着手する。

## 【7】自己点検・評価体制

今年度は大学、短大、大学院、大学専攻科、短大専攻科についてそれぞれに評価報告書を作成することを、最も重要な案件として行ってきた。大学報告書についてはほぼ最終稿段階であり、2011年4月内の完成を目指している。その他の機関については大学報告書における記述の方向性を基幹として最終的な加筆修正を行うために作業中である。

第2周期の受審スケジュールについては、自己点検・評価統括委員会と理事会でそれぞれ協議中であり、2011年度には受審に向けたタイムスケジュールを策定できる予定である。基本的には日本高等教育評価機構において大学・短大の同時受審を予定している。そのために短大基準協会から退会する手続きを行い、受理された。

第2周期の受審に備え、日本高等教育評価機構が主催する大学評価セミナーや評価充実協議会に出席。大学評価の今後の方向性や評価基準の変化の動向について情報の収集を行っている。

学内の授業評価アンケートも例年どおり実施された。今回は実技科目と講義・演習科目において質問項目を変えるなど、アンケート内容の見直しを行った。また実施方法についても改善を行い、アンケート回収率の向上につながった。

### 自己点検・評価「授業アンケート」

#### ●要旨

大学、短大、大学院、大学専攻科、短大専攻科の全ての学生に対して、講義・演習・レッスン等の全ての科目を対象に授業評価アンケートを実施する。

#### ●成果及び達成度

昨年度までの実情を踏まえ、本年度はより実効性を高めるべく、実技科目と講義・演習科目において項目の取捨選択を行った。また、実施時期についても今までとは異なり、3週間の中で実技科目、講義演習科目を担当教員の裁量において適宜実施できるようにし、アンケート実施時に欠席していた学生への追加実施も行えるように配慮した。その結果、アンケートの回収率は昨年度に比べて向上した。結果は4月下旬頃までに集計し、全教員へのフィードバックを行う。また学生にも閲覧が可能なように図書館等に配布の予定である。

#### ●今後の展望

より効率的な実施のために、アンケート項目の改善や実施方法等の検討は継続する。また、FD活動にもリンクさせるようなシステムについても検討する。

### 自己点検・評価体制「報告書作成」

#### ●要旨

大学、短大、大学院、大学専攻科、短大専攻科について、それぞれの自己点検評価報告書を作成する。

#### ●成果及び達成度

学短同時受審を視野に入れ、すべての自己点検報告書を作成する。今回は学内向けなのでデータ編は必須ではないが、作成することができた。これにより次回の第三者評価時のデータ作成に役立つ部分があると思われる。現時点で、大学の報告書は最終校正段階に入っている。それを基に、記述の方向性をそろえる形で他の機関の報告書も早急に完成させる。

#### ●今後の展望

日本高等教育評価機構の評価基準が2012年度から変更されるため、現在の記述を応用できる部分と全く新しく追加される部分とを区別整理し、次回の受審への準備を進めていく。

## 【8】 付属図書館

新規に、WEB 版資料の導入を行った。音楽情報検索ツールと電子ジャーナルの検索、音源の WEB 配信ができるようになった。学内のみならずポータルシステム経由で学外からも情報を利用できるため、利便性が飛躍的に向上した。

イベント展示は定期演奏会やオペラハウス公演の演目などについて年間 11 回実施し、好評であった。

### Web 版資料の導入 音楽データベース（音楽情報検索ツール）

#### ●要旨

2010 年度に音楽情報検索ツール、電子ジャーナルについて以下のような WEB 版資料を新規に導入した。

1. 音楽関連出版物や楽譜を検索するツールとして RILM (Repertoire International de Literature Musicale RIPM=Retrospective Index to Music Periodicals) と IIPM (International Index to Music Periodicals)
2. 音楽に特化した電子ジャーナルで未購入の雑誌も閲覧可能である。IIPM (International Index to Music Periodicals)

#### ●成果及び達成度

学内のみならずポータルシステム経由で学外からも情報を利用できるため、利便性があり、学生の学習、教員の研究活動のサポート体制も向上した。アクセス数は RILM、RIPM が 3,990 回、IIPM が 426 回であった。

大学、短期大学部とも初年次教育として、新入生全員に利用方法のレクチャーを受講させているので、在学中の学習の効果的なサポートとなっている。

#### ●今後の展望

利用者向けの研修会は 4 月と 9 月に 2 回実施したが、認知度が低いため受講者が少ない。広報活動が課題になっている。

### Web 版資料の導入 ミュージック・ライブラリー

#### ●要旨

2010 年度にクラシックを中心に民族音楽、ジャズ、ポピュラーの分野までの音源である、ナクソス・ミュージック・ライブラリーを導入した。

#### ●成果及び達成度

学内のみならずポータルシステム経由で学外からも情報を利用できるため、利便性があり、学生の学習、教員の研究活動のサポート体制も向上した。アクセス数は 9,518 回であった。

大学、短期大学部とも初年次教育として、新入生全員に利用方法のレクチャーを受講させているので、在学中の学習の効果的なサポートとなっている。

#### ●今後の展望

利用者向けの研修会は 4 月と 9 月に 2 回実施したが、認知度が低いため受講者が少ない。広報活動が課題になっている。

## 【9】 音楽博物館

本館の存在意義を対外的に認知してもらう活動を中心に、本年度も過年度に引き続き活発な活動を行った。

### ①レファレンス対応

来館者に対しての案内・説明から専門的なレファレンス対応まで、スタッフが経験を重ねてきたことによって充

実し、来館者への対応もスムーズに行われた。

#### ②自主企画

館の持つ資料と情報を学外に周知し、館の魅力を広めたいというスタッフの意思が強く、2011年度より「移動音楽博物館」を企画するなど、博物館活動を活性化した。

#### ③来館者増

上記のような積極的な活動が来館者の増加を促し、今年度は特に海外から高校生が研修旅行で来館する件数が増加した。このことを受けて、欧文リーフレットを作成した。

#### ④授業サポート

学内向けには初年次導入教育の一環として、博物館探求やガムラン試奏など行っているが、2012年度からガムランが大学のカリキュラムとして取り上げられる。博物館としてもガムランに限らず、各種の授業をサポートするべく館内の資料の充実を図っている。

#### ⑤資料修復

過年度に引き続いて古典ピアノはさらに一台が修復を終え、最近のピアノ界で注目を集めている古典ピアノの授業での活用にも十分応え得る体制となった。

#### ⑥将来的展望

本学図書館と共同参画による情報発信センター構想を立て、両館でその可能性や構成などの検討会を2回行った。検討会は今後も継続する。

### 連携講座の展開

#### ●要旨

1. 岸和田市・岸和田文化事業協会主催の世界各地の音楽を紹介するレクチャー・コンサートを本館が企画し、演奏に関する資料提供、演奏家派遣などで連携した。岸和田市立自泉会館に於いて5回開催され、延べ364人の入場者を記録した。

第1回「モンゴル編 モンゴル 大草原の音と声」入場者数 71名

第2回「イタリア編 ヴァイオリンの聖地イタリアから」入場者数 49名

第3回「イラン編 ペルシアの幻想 トンバク・サントウル・セタールの競演」入場者数 63名

第4回「アルゼンチン編 アルゼンチンタンゴの華 バンドネオンの真髄を聴く」入場者数 115名

第5回「インドネシア編 バリ・ガムランその華麗な音の磁場へ」入場者数 66名

2. 豊中市立伝統芸能館と本館の共催事業として、本館の企画による世界の楽器と音楽を紹介する講座を、豊中市立伝統芸能館及び本館展示室で3回開催した。参加人数は述べ120人を記録した。

第3回 「太鼓は祭の主役」参加人数 56名

第4回 「知っているようで知らないリコーダー」参加人数 31名

第5回 「もっと知りたい世界の楽器」参加人数 33名

#### ●成果及び達成度

1. 増幅装置を使わない、全くアコースティックな会場でそれぞれのベテランによる演奏が、まさに「歌いあげる」言葉にぴったりの好演であった。
2. 岸和田市での企画が演奏をメインにしているのに対し、こちらはテーマを設定し講義形式で展開する講座である。本館が楽器を展示し、音にして世界の音楽を提示するバックヤードとして、音楽の様々な研究がいかに充実しているかが問われる企画である。第5回は会場を伝統芸能館から本館展示室に移し、展示楽器の説明を行った。

## ●今後の展望

1. この催事の経費は岸和田市が負担し、本館は企画と資料提供などを担当している。近年の財政難のため、年間施行回数も減り年1回となったが、好評であるため2011年度も継続することになった。
2. この催事は本館と豊中市立伝統芸能館が講師料などの経費を折半して実施している。どの講座も参加者からの好評を得ているので、文化の維持・向上のため事業を継続する。

### 新しいワークショップの展開

## ●要旨

日頃接することの少ない楽器の演奏を体験することを目的としてワークショップを実施している。ガムランと古典ピアノは毎年継続的に実施しているが、今年度はミュージカルソーを新たに開催した。

ガムラン・ワークショップ(初心者向) 参加人数 15名

ガムラン・ワークショップ(経験者向) 参加人数 21名

ミュージカルソー・ワークショップ 参加人数 10名

古典ピアノ・ワークショップ 参加人数 23名

## ●成果及び達成度

ガムランは本館が継続的に活動を推進しているもので最も長い実績を持つ。初心者から経験者まで能力に応じて参加できる体制をとっている。特に、現地バリ島の演奏団による指導と演奏は人気が高く、参加者にとって貴重な体験である。古典ピアノはピリオド楽器への認識が高まり、参加者も増加傾向にある。今年度は新しい試みとしてミュージカルソーを実施した。一定の音を維持する、音程を決めるなど相当な音感と体力を必要とするなど演奏が難しく、1日限りのワークショップでは参加者の満足を得ることが難しいことが判明した。この反省点を踏まえ、今後の新しい企画に際しては、習熟に要する時間についても配慮することとした。

## ●今後の展望

近年の学生は様々な世界をWEB上でヴァーチャルに知っていても、実際に触れることは少ない。自らの専門性を深めるためにも、今後さらに様々な楽器の世界を紹介していきたい。

### 【9】 附属音楽幼稚園

在園児数は278名(3歳児3クラス99名、4歳児3クラス98名、5歳児81名)、3月には5歳児80名が卒園した。2歳児の親子教室も定着し、あそびのおへや「いちごクラブ」(5月～9月)には56組、どんぐりクラブには45組の申込があり、クラスを増設した。

定期音楽会「こどものミュージカル」は会場としていた豊中市民会館が2010年度末で閉鎖となるため、検討を重ねた結果、本事業は今回の第30回をもって終了することとなった。最終公演にふさわしい内容とするため、2演目を上演し、全学年の園児が出演した。(平素は4歳、5歳の2学年のみ)8年目となる音楽教室「クレフ」の受講者は107名、対象園児の約60%が受講した。

### 幼児教育の充実と地域に開かれた幼稚園づくり事業

## ●要旨

豊中市が推奨する「地域に開かれた幼稚園づくり事業」の一端として、年4回の「みんなあつまれようちえん」、オペラハウスでの「親子で聴く音楽会」、「こどものミュージカル」を子育て支援の場として地域の未就園児親子に提供した。又、臨床心理士によるカウンセリングや専門講師による絵画指導も引き続き実施した。

## ●成果及び達成度

「みんなあつまれようちえん」は実施された3回は昨年に比べ参加者も大幅に増加し、本園の催しとしてかなり定着したと思われる（1回は雨天のため中止）。専門講師による絵画指導は、園児の表現意欲を刺激し、幼児教育の充実にもつながった。

●今後の展望

親子で聴く音楽会とカウンセリング事業を地域に対して更なる広報に努めたい。

**2歳児の親子教室**

●要旨

就園前の2歳児と保護者を対象に子育て支援の一環として「あそびのおへや」を前期「いちごクラブ」と後期「どんぐりクラブ」として実施した。

●成果及び達成度

いちごクラブ、どんぐりクラブとも募集人数を大幅に上回る参加があり、それぞれクラスを増設して行った。2歳児の多種多様な遊びを体験させることができ、保護者の子育て支援を担うことができた。

●今後の展望

更なる広報に努め、新入園児の獲得につなげたい。

## B 社会連携活動事業

### 【1】アドミッション事業

各入学試験の結果は以下のとおり。

- ・大学1年次入学試験の志願者数合計は250名（前年度249名）、前年度比0.4%の増ではあるが、入学者数は179名（前年度171名）と昨年に引き続き入学定員を下回った。
- ・大学第3年次編入学試験の志願者数合計は31名（前年度48名）入学者数は26名（前年度39名）。
- ・大学音楽専攻科入学試験の志願者数は49名（前年度48名）入学者数は35名（前年度37名）。
- ・大学院入学試験の志願者数は42名（前年度44名）入学者数は14名（前年度13名）。
- ・短大1年次入学試験の志願者数合計は227名（前年度263名）、前年度比13.7%減となり、入学者数は140名（前年度172名）と昨年に続き入学定員を下回った。
- ・短大専攻科入学試験の志願者数は21名（前年度36名）入学者数は17名（前年度25名）。
- ・出張授業で本学教員が訪問した高校数は延べ41校、進学説明会で教職員が訪問した高校数は延べ119校、それ以外に入試事務部門スタッフが大学広報を目的に訪問した高校数は延べ43校、合計203校の高校を訪問した（前年度175校）。
- ・特別推薦は29校（前年度31校）から推薦があり、それぞれ試聴・三者面談を実施した。
- ・受験産業等が主催する進学相談会は北陸、西日本を中心に25会場（前年度24会場）に参加した。
- ・オープンキャンパスは2回実施し、約1,220名（前年度3回約1,110名）を動員した。2回のうち、10月11日のオープンキャンパスは祝日の授業日に合わせて実施した。
- ・土曜日の午前中に、学生が施設見学をガイドする「ウィークエンド・キャンパスツアー」は8回開催し、延べ66名が参加した（前年度13回開催、65人参加）。

**吹奏楽ワークショップ**

●要旨

中学校、高等学校の吹奏楽部員および指導者を対象に、吹奏楽ワークショップを開催した。午前は中学の部、

午後は高校の部として実施した。オリエンテーションの後、生徒は各楽器ごとに 32 会場に分かれて本学講師陣によるワークショップを行った。参加者が多い楽器は初心者・経験者・応用またはアルト・テナー・バリトン等楽器の音域別にクラス分けした。同じ時間帯に指導者はオペラハウスにて丸谷明夫特任教授の講義「魅力あるバンド活動」を開催した。最後にオペラハウスにおいて講師陣による吹奏楽コンクール課題曲のミニコンサートを実施した。

合わせて、研究事務部門がオペラハウスのロビーにて大栗裕関係資料及び音楽の仕事情報館に係る資料を展示した。

#### ●成果及び達成度

参加者 中学の部 19校 生徒 555名 顧問 22名 計 577名  
高校の部 13校 生徒 436名 顧問 13名 計 449名  
講師 36名 本学学生アルバイト 52名

参加した生徒、指導者からは好評で、是非来年も参加したいという声が多かった。今回、初めての開催ということで、社会貢献事業としての意味合いを全面に出して行ったが、吹奏楽クラブの多くの中学生・高校生が本学に来校し、本学講師陣のワークショップを体験してもらえたことは、将来的な志願者獲得にとっても有益な催しであった。

#### ●今後の展望

2011 年度についても同じ内容で開催する。可能な限りの動員を図り、吹奏楽系の志願者獲得につなげていきたい。

### 施設見学会（幸楽会）

#### ●要旨

同窓会《幸楽会》総会当日に会員を対象にした「幸楽会オープンキャンパス」（施設見学会）を実施した。また総会前日、各支部長を対象に「幸楽会支部長・法人懇談会」を催した。

#### ●成果及び達成度

「幸楽会支部長・法人懇談会」では全国の支部長 17 名と役員 3 名、大学執行部から 6 名が参加した。法人側から本学の現状や入試制度、就職状況を説明した。幸楽会支部長からは本学に対する貴重な意見が多数寄せられ、幸楽会と本学との連携を深める情報交換の場となった。翌日の「幸楽会オープンキャンパス」では模擬レッスン聴講、オペラハウス・図書館・視聴覚室の見学ツアーを実施した。参加した幸楽会会員は本学の状況がよくわかったと好評であった。

#### ●今後の展望

今後も幸楽会との連携を図ることにより、志願者確保の一助としたい。

### 学校見学会（楽器店）

#### ●要旨

ローランド㈱の音楽教室講師を本学に招き、学校説明・入試説明および施設見学を実施。本学の現状、教育内容、入試制度等を知っていただく機会とした。

#### ●成果及び達成度

近畿圏を中心に 18 名の参加があった。学校説明では本学のピアノと電子オルガンの教育主任から、入学後の詳しい教育内容を説明した。施設見学では ML システムを備えた教室やオペラハウス、ミレニアムホールを案内した。また昼食時に学長を交えた懇談を行ったことで、参加者に大阪音楽大学の現状をより身近に知ってもらうよ

い機会となった。

●今後の展望

2011年度はローランド(株)に加えてヤマハ、カワイの音楽教室の講師も対象とし、3社合同で説明会を開催する。本学学生によるミニコンサートを加えるなど、内容についても検討する。

名曲コンサート

●要旨

2009年度から開始した楽器店連携事業を「This is 大阪音楽大学」(内容は体験レッスン、学校説明会)と銘打ち西日本を中心に10会場で開催した。そのうち4会場について、本学講師によるコンサート(約1時間)を開催した。

●成果及び達成度

4会場での入場者数は計170名。体験レッスン受講者以外にもコンサートを目的とした来場者もあった。中学・高校生からは、音楽大学の教員の演奏を間近に聞くことができたことで、好評であった。

●今後の展望

次年度は「This is 大阪音楽大学」全12回のうち8回でコンサートを開催する。より多くの方に音楽大学の教員の演奏を聴いてもらえるよう広報する。

出張授業(中学校)

●要旨

若年層の音楽人口を広げ、中・長期的な志願者の獲得を目指すため、従来より高等学校を対象に実施している出張授業を中学校に拡大した。

●成果及び達成度

延べ6校の中学校で出張授業を実施した。参加した中学生は延べ275名、実施した中学校の生徒からは好評であった。

●今後の展望

中学校への出張授業は、短期的な志願者獲得に結びつくものではないが、音楽人口の裾野を広げることは音楽大学としての社会に対する役割でもあり、今後も中学校からの要望があれば実施していく。

【2】エクステンション事業

<キャリア関連>

キャリア形成及び就職活動全般についての理解を深めるため、大学3年生、短大1年生を対象に進路ガイダンスを、大学2年生を対象にキャリアガイダンスを実施した。さらに大学3年生、短大1年生全員を対象にキャリア相談室スタッフによる進路面談を行った。

日本キャリアサポート協会に依頼し、希望者対象の「キャリアデザイン講座」を年6回、「キャリアカウンセリング」を年18回開催した。

ヤマハ・カワイ・ローランド等の音楽教室講師採用、音楽教室運営をレクチャーする音楽教室how toセミナー、教員採用試験、警察・自衛隊の音楽隊採用、就職ナビの各説明会等を開催した。

社会人としての基礎を身に付ける機会として秘書技能検定講座、教員採用試験準備講座、音楽指導グレード取得準備講座、就職面接対策講座を実施した。

インターンシップは一般企業や公共ホールなどの新規受け入れ先を開拓し、25の事業所で夏期・春期併せて延

べ60名が体験した。終了後、体験学生によるインターンシップ報告会を行った。

2010年度 進路調査結果(2011年3月卒業生、2010年9月卒業生含む)

		大学	短大	大学院	学専	短専
就 職	音楽教室(企業)	25	13	1	4	3
	音楽教室(自営)	10	5	0	5	0
	演奏活動	4	5	1	2	0
	企業	24	10	0	0	2
	教員	31	2	3	6	0
	公務員	2	1	0	1	0
	その他	10	8	1	2	1
	小 計	106	44	6	20	6
進 学		49	48	1	2	2
その他	フリーター	33	32	0	2	3
	進学・留学準備	8	1	1	2	1
	その他(未提出含む)	28	17	1	0	3
	アルバイトしながら演奏活動	21	21	3	9	8
	小 計	90	71	5	13	15
卒業・修了者数		245	163	12	35	23

<エクステンション関連>

卒業後の演奏経験を積み場として2006年度にスタートした「若い芽のコンサート」は2010年度2回開催し、12名が出演、155名が来場した。

大阪市のATC 南港サンセットホールにおける「Daion コンサート夕映えの海とともに」は10回開催し、約1,140名が来場した。卒業生に演奏機会を提供すると同時に、大学広報としての役割も担っている。

音楽文化普及活動では「カレッジ・オペラ講座」として高校生のためのオペラ講座、一般社会人のためのオペラ講座、オペラ物知り講座を開催し、延べ708名が受講した。

ミレニアムホール特別講座は4回開講し、793名が受講した。

大阪府、豊中市、高槻市、羽曳野市など自治体との共催事業も内容を充実させ、一般市民に生涯学習の場を提供した。

学内で実施した「指導者研修」の受講者は168名、教員免許状更新講習は116名が受講した。

キャリア相談室設置

●要旨

エクステンション事業の1つであるキャリアサポートを在学生向けにわかりやすく提示するため、「キャリア相談室」をエクステンション・センター内に設置し、以下の事務室内リニューアルを行った。

- ・学生が就職情報の収集・閲覧や進路相談のために入室しやすいレイアウトに変更
- ・学生のフリースペース、面談スペースの拡大
- ・学生のプライバシー保護のためのパーティションの設置
- ・学生が入室しやすい全面ガラス扉への変更

●成果及び達成度

部屋全体が明るくなり、以前に比べて学生が入室しやすい雰囲気になった。

●今後の展望

2011年4月より、キャリア相談室は「キャリア支援センター」に発展改称し、卒業生・在学生に対するさらに充実したキャリア支援を行う。

学生のキャリアデザイン支援

●要旨

学生が自らのキャリアをデザインする力を養えるよう、以下の機会を設定した。

- ・日本キャリアサポート協会による「キャリアデザイン講座」
- ・日本キャリアサポート協会による「キャリアカウンセリング」
- ・大学2年生対象のキャリアガイダンス
- ・大学3年生、短大1年生を対象にした進路ガイダンス

●成果及び達成度

- ・日本キャリアサポート協会による「キャリアデザイン講座」を6回実施し、のべ125名の学生が参加した。
- ・日本キャリアサポート協会による「キャリアカウンセリング」を18回実施し、のべ42名の学生がカウンセリングを受けた。
- ・大学2年生対象のキャリアガイダンスには85名の学生が参加した。
- ・大学3年生対象の進路ガイダンスは153名、短大1年生対象の進路ガイダンスは84名が参加した。

●今後の展望

より多くの学生に対し、将来を考える手助けとなるよう周知方法や実施方法を検討する。

教員採用筆記試験準備講座

●要旨

勉強の仕方がわかりづらいと、以前から開講を要望する声が多かった教員採用試験の筆記試験対策講座を、教職を目指す学生及び卒業生を対象に実施した。

●成果及び達成度

一般教養は在学生20名、卒業生2名が受講、教職教養は在学生23名、卒業生2名が受講した。

●今後の展望

受講生には好評であったので、今後より多くの学生が受講できるよう、実施時期や方法、広報手段を検討する。

カワイグレード6級 特別講習

●要旨

2009年4月に締結した「カワイ ピアノグレード認定に関する協約」に基づき、卒業時にカワイピアノグレード6級取得を希望する短期大学部ピアノ・コース2年生に対し特別講習を実施した。

●成果及び達成度

7名がカワイグレード6級を取得した。

●今後の展望

より多くの学生に本制度を理解してもらえよう積極的に広報を行い、より詳細な情報を提供する。

### 【3】オペラハウス活動

オペラハウス企画公演として4企画6公演を行い、2,922名が来場した。オペラハウスにおける在學生による公演は、授業の延長としての公演、学生の自主公演など51公演を実施、12,401名の観客を動員した。主催事業や学生の公演では、舞台を使用したリハーサルを実施し、教育の面からも有意義であった。これらの中で、オペラのゲネプロを公開する試みには、在学生のほか、京阪神の音楽科に在籍する高校生なども参加した。在學生は試験、オーディションでも舞台で演奏する機会を持った。また、アドミッション関連の事業には5件1,841名が入場し、附属音楽幼稚園、附属音楽院、本学同窓会〈幸楽会〉、関西音楽大学協会の公演等に2,366名が入場した。10年目を迎えた地域ふれあいコンサートは地域と共生していく上で意義があった。オペラハウスの稼働日数は216日、公演件数65件、入場者数26,287名であった。

オペラハウス管弦楽団の活動範囲は近畿を中心に10件16回の依頼演奏を、オペラハウス合唱団は2件2回の依頼演奏を行った。

また、オペラハウス管弦楽団は、平成22年度文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業」（巡回公演事業）において、兵庫県及び四国4県で巡回公演を実施し、公演準備のためのワークショップと演奏会をそれぞれ26回開催した。

#### オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラについては、6件10回の公演を行った。通常のオーケストラ演奏会は2回実施し、音楽セミナーのモデルオーケストラ（室内楽含む）で4回の公演を行った。

●成果及び達成度

オペラ公演では、すべての公演において充実した演奏を行い、関西でのオペラハウス管弦楽団の存在を確かなものとしている。音楽セミナーでは、依頼先の要望に即座に対処できることが仕事の受注につながった。

●今後の展望

オペラハウス管弦楽団の特質を最大限に活かし、関西のより多くのオペラ公演を受注できるよう、演奏水準及び営業力の向上を目指す。また、依頼主の多様な要望に即座に応えられるよう、日ごろから様々な編成での演奏に対処できるようにする。

#### オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

2010年度については、2件の出張演奏を受注するにとどまった。

1. NHK 大阪放送局制作の録画番組に出演

よみがえる関西のオーケストラ作品 ～ラジオ歌謡とその時代～（収録日：2010年8月5日）

会場：NHK 大阪ホール

2. 学校法人奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 校歌録音（収録日：2010年6月9日）

●成果及び達成度

関西でも有数のプロ合唱団として、NHKテレビという媒体を通して広く一般にオペラハウスの名前を周知することができた。

●今後の展望

関西地区の経済状況から、前年度に比べ依頼演奏の受注が大きく落ち込んでいるが、演奏水準を維持し来年度は依頼演奏をより多く受注できるよう営業活動を活発化させる。

#### 【4】附属音楽院

2010年度講座受講者数は3116名(3ヶ月1期とした延べ人数)で対前年度比10.5%増、新規会員数は約400名となった。音楽院の主要セクターごとの受講者数と対前年度推移は以下のとおり(それぞれ3ヶ月1期での延べ人数)。教養講座：社会人向けの生涯学習1,783名(前年度比11.2%増)、こども音楽教育講座：幼児～中学生向けの早期教育581名(前年度比14.1%増)、進学講座：高校生(既卒者を含む)向けの進学対策77名(前年度比3.8%減)、個人レッスン675名(7.3%増)。

2009年度は見送った教養講座を2010年度より新規開講し、3講座で延べ198名と安定した受講者を得た。

進学講座では音楽大学、音楽高校などへの進学をめざす人のための「音楽系進学のための実力診断」を9月、3月に新規に実施。本学を第1進路志望としない人に対しても診断の機会を設けることにより、新たな受験者層に対する本学並びに附属音楽院の知名度向上を目指した。今年度は2回で24名の受験者を得た(内8名が中学生)。

#### 音楽院イベント

●要旨

[特別講座]

「あの楽器に触れてみよう」など18講座を実施(参加者延べ315名)した。

[発表会]

3回の発表会、1回(2日間)の音楽院カーニバルをそれぞれ実施した(総出演者数353名)。

[その他]

4月に2日間、こども音楽教育講座無料体験を実施した。受講者数延べ274名の参加を得て、2010年度のこども音楽教育講座受講者増に大きく貢献した。

音楽院コンサートは北野徹教員とパーカッショングループ大阪の出演により1日、2公演を実施。こども向けのプログラムとし、実際に音楽院で弦楽器を学習する小学生の出演などにより、無料体験受講と合わせて子ども音楽教育講座受講者増に大きく貢献したと考えている。

また4月期、9月期の期首に教養講座26講座を対象にワンコイン体験受講を実施(受講者79名)。

●成果及び達成度

[特別講座]

ハーブやパイプオルガンなど普段触れることの少ない楽器を身近に感じる機会を提供することで、それらの楽器に対する関心の喚起や聴衆層の拡大に寄与した。また、2010年より親子の部を一般と分けて実施したが、大半の事業で親子の部への参加者が多く、音楽への関心の高い親子に対する本学のアピールに成功した。

[発表会]

会員サービスの向上と共に、幅広い年齢層の会員への舞台経験を体験させることにより、継続受講へのモチベーション向上につながった。

[その他]

こども向けの無料体験や教養講座のワンコイン体験などは、講座受講への敷居を下げるだけではなく、受講前のイメージと実際の受講時での内容との相違から来るクレームの防止にも有用であり、その他特別講座や音楽院コンサートなどとの有機的な連携により、全体としての会員・受講者増に役立っていると考えている。

#### ●今後の展望

今年度の実績を踏まえて、特別講座、音楽院コンサートや発表会など実施する予定であるが、対象・形体・内容を再検討し、より収益性の高い事業を展開し、顧客満足度の向上につとめる。今年度も引き続きこどもの教育に重点を置いた講座開講と広報を行っていく。

## C 法人組織運営事業

### 【1】広報活動

前年度に施行した「広報統括システム」は、6月より政策企画本部の下で、その内容を一新することになった。「広報作戦チーム」、「広報統括ディレクター」を廃止し、それに代って「広報委員会」と「WEB運営委員会」を立ち上げ、政策企画本部が入試広報も含めた全学的な広報戦略を企画・立案し、担当理事の指示の下に、迅速かつ効果的な広報活動の実施することとした。

2010年度には、動画編集室を充実させ本学HP上に動画サイト「動く大音 Daion Movie 動画で見る大阪音楽大学」を開設した。

「オープンキャンパス」の充実のために、学生による案内ガイド「キャンパス・コンシェルジュ」を編成し、来場者への満足度の向上を目指した。

各専攻分野に特化した広報戦略として、ポピュラー・コースオリジナルのチラシを作成し、今後の戦略構築のテストケースとした。

オリジナルグッズ開発のために各事務部門からメンバーを集め、検討会を開催した。その後、具体的な開発に着手し、次年度に向けて配布・販売の計画・実行を確定した。

次年度は「広報誌ミュージズ」のリニューアルを中心に、学内広報の強化を図る。特に、教職員と在学生との間で学内情報の共有とその利用、さらに卒業生、関係者、社会といった学外への広報に拡大・深化を目指し、学内から学外へと広がる新たな広報戦略の構築と実施を最重要課題とする。

### 広報統括システム

#### ●要旨

今年度6月より再組織化した広報統括システムは、広報統括ディレクターを廃止し、予算執行も含めて、政策企画本部と担当理事との直接的な協働により、迅速かつ効果的な広報戦略の企画・実施を目指す。

#### ●成果及び達成度

政策企画本部に広報戦略を一元化することによって、情報収集・分析の効率化、広報戦略の企画から実施までの時間的・予算的な効率化、広報戦略の見直しが可能となった。

また、各事務部門との連携、特に入試センターとの連携にもこれまで以上の強化を図った。

#### ●今後の展望

次年度の課題は各事務部門との連携強化である。特に入試センター、キャリア支援センター、学務事務部門、研究事務部門との協働により学内広報の強化を進め、社会的貢献度の高い広報戦略を構築する。企業、他大学、高校等の学校、研究機関、諸団体等との関係強化等の対社会的戦略の構築を試み、本学の音楽資源を有効に活用しながら、本学の社会的な認知度を高めたい。また、志願者層の拡大を目指し、社会的価値を広報資源としてより社会的に貢献度の高い広報を実行する。

## 【2】施設・設備

オペラハウスの舞台機構に係る制御系設備更新工事（第1期）、非常用蓄電池の更新工事、加圧給水ポンプユニットの更新工事、空調フィルターの更新工事をそれぞれ実施した。なお、制御系設備更新工事は、今後第2期・第3期工事を予定している。

オペラハウスでは、2012年度に大規模な改修工事を予定しており、建物設備のコンサルタント契約をしている業者と、その改修内容について、現在検討を進めている。

N号館の外壁改修工事を1991年の竣工以来はじめて実施した。漏水等を防ぐなどの建物維持に合わせて、対外的な入試センター、コンサート・センターの外観イメージの向上も図った。

学生サロン「ぼうぜ」では、ガラスブロックの目地より一部漏水が確認されたことから、ガラスブロックのコーキング補修工事を実施した。

付属音楽幼稚園について、園庭に設置されている木製遊具を2009年度より3ヵ年計画で更新しており、2010年度は三角タワー、ブロックジム等を更新した。なお、老朽化していた園庭側テラスの人工芝についても8月に全面張り替えを実施した。

大学の防犯強化を目的として、本校（庄内幸町学舎）の各出入り口4ヶ所に防犯カメラを新設した。カメラは24時間撮影しており、夜間でも人物等を確認できる仕様のもので採用した。また、O号館の1階サロン及び2階ロビーに防犯カメラを新設するとともに、老朽化していた館外防犯カメラについても更新を実施した。

文部科学省が推進する「大学等における省エネルギー対策」の一環として、昨年に引き続き8月に6日間の全校閉鎖期間を設けた。日曜を閉鎖日にするなど日程については練習室等の稼動状況に配慮した。中長期的な取り組みとして、次年度以降も継続する。

### オペラハウスの改修

#### ●要旨

1989年に竣工したオペラハウスは、本学の象徴的建築物であると共に教育・研究活動に欠かすことのできない施設として、良好な状態での維持・管理が求められている。

しかし、既に竣工後20年以上経過した現在、エクステリアや照明、舞台機構、音響等の各種設備の経年劣化が進行しているところから、2年後（2012年度）の全面改修に向けて計画等の準備に着手する。

#### ●成果及び達成度

本学とコンサルティング契約を締結している業者を交え、照明設備、舞台機構、音響設備の各専門業者からの説明や、オペラハウスで現在就業している職員及び業者の現場での運用的立場からの意見を聴取するなど、2010年度内に4回の打合せを行った。この打合せにより、総額予算の圧縮、改修工事の提案に対する優先順位の付加、すでに機能向上している工事の削除など行うことができたが、同時に専門業者からの提案と現場担当者との優先順位・重要性に対する認識の相違を確認することができた。

#### ●今後の展望

専門業者からの提案と現場担当者から見た優先順位、重要性の相違をコンサルタント業者に伝え、2011年度に提案の再提出を依頼し、この計画提案を基に、大学、コンサルタント、専門業者の間でさらに調整を進め、2012年度の全面改修に向けた具体的な計画を作成する。

## 【3】法人の運営

理事会は、6月に企画事務部門から発展的な組織再編成として政策企画本部を設置した。事務管理責任者として事務局次長1名、役職者として政策企画本部担当部長1名を新たに配置し、事務局長と各事務部門の中間に位置し、理事長がその責を負う新体制を構築した。

理事会を5回、評議員会を3回開催した。理事会により決定された学校法人の業務を円滑に遂行するために、常任理事会を28回開催、延べ273件の議題を審議した。また、各役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を11回開催した。

教職員総数は575名、うち専任教員は85名（大学・短期大学70、付属音楽幼稚園教諭14、音楽院教員1）、専任職員は78名。このうち年度中の退職者は86名（専任教員6（含、付属音楽幼稚園）、専任職員8、非常勤講師27、その他45）であった。

#### 寄付金募集活動

##### ●要旨

寄付金事業「教育振興資金」が年10月に終了した。5年間を通じた芳名録を作成し寄付をいただいた方々に発送した。

##### ●成果及び達成度

2005年10月15日から2010年10月14日まで5年間での寄付総額は24,597,132円（個人15,407,132円、法人9,190,000円）であった。

##### ●今後の展望

今回の事業で得たノウハウを生かして100周年を迎えるに当たっての新たな寄付金事業の企画を行う。

#### 新人事制度の実施準備

##### ●要旨

大学を取り巻く環境や時代に適合した新人事制度を導入し、これを学校法人全体の活性化につなげる。

##### ●成果及び達成度

新人事制度のうち、評価制度はすでに凍結が決定しているため、主として事務職員の等級制度、報酬制度の実施に向けて準備をすすめた。等級に関しては過年度を含めた役職を根拠に仮格付けを行うことについて様々な視点から議論を深めた。報酬の面では他大学の事例を参考にこれまでの「レンジ」の考え方を改め、年齢を重視した体系づくりのためにシミュレーションを重ねた。

##### ●今後の展望

報酬制度について、移行措置や給与計算上の「暦差」等、具体的な問題の解決策を検討する。

### III 財務の概要

別紙をご参照ください。